



令和5年度 朝日町立西五百川小学校だより

ポ プ ラ



第7号 令和5年11月16日

校長 清野 雅紀

海の子山の子交流(山の集い)

朝日町と宮城県七ヶ浜町は、「友好の町」として提携をしています。2つの町の小学生が互いに訪問し、それぞれの町の自然や文化、産業を勉強し、交流を深めています。2つの町には、それぞれ3校の小学校がありますが、今年度は、西五百川小と七ヶ浜町夕見小が交流を行っています。

10月14日(土)、今年2回目の交流会を、西五百川小を会場に行いました。絶好の秋晴れの下、顔合わせをした後、能中の志藤さんの農園で、りんごのもぎ取り体験を行いました。

真っ赤に色づいた「シナノスイート」を、袋いっぱいにもぎ取りました。そして、学校に戻る途中に、「榎平の棚田」を眺めてきました。お昼ご飯の後は、「モルック」を体験。



夕見小の人たちと、りんごをもらったり、たな田を見たりして楽しかったです。七ヶ浜の人たちが、朝日町を好きになってくれて良かったです。(5年 _____)

ファインプレイの連発で、大いに盛り上がりました。海辺の町と、山間の町、互いを理解し合うとともに、和やかな交流ができました。

にこにこ班で芋煮会



10月17日(火)、子供たちが育てていたつるり里芋を収穫しました。1・2年生が芋を

掘り、3・4年生が芋を洗いました。家に持ち帰り、里芋の皮を自分でむいたり、家の人からむいてもらったりして、また学校に持ってきました。

10月20日(金)には、にこにこ班(縦割り班)に分かれ、芋煮作りをしました。班のメンバーで、作業を分担したり、助け合ったりして、子供たちで芋煮を作りました。味は、もちろん最高! とってもおいしくて、何杯もおかわりして食べました。

やっぱり、いもに会最高!

ぼくは今年2回目のいもに会で、みんなで作ると、とてもおいしくなる、と思いました。ぼくのチームは里芋が多く、ねっとりしていて、とてもおいしかったです。最後にはカレーうどんを作って、最後の汁まで残さず、きれいに食べることができました。(5年 _____)

空気神社

9月半ば、6年生の「空気神社」見学に同行しました。空気神社は、白倉地区、Asahi 自然観の敷地にあります。神社と名前がついていますが、宗教法人ではなくモニュメント(記念建造物)なのです。神社というからには御神体が祀られています。空気神社の本殿は、5メートル四方のステンレス板の鏡です。設計段階では、ステンレスの一枚板にするつもりだったそうですが、そんな大きな一枚板のステンレス板は作れないし、運ぶのも難しいということで、1メートル幅のステンレス板をつなぎ合わせたのだそうです。とにもかくにも、ステンレス鏡には、周囲のブナ林と、木々の間からの青空が映っています。

御神体が祀られているのは、本殿の地下です。深さ3メートルに、全部で12個の素焼きの瓶が安置されています。1年は12カ月なので一年を表しているということです。もちろん、この瓶自体が御神体ではなく、瓶の中身の空気が御神体というわけです。残念ながら、今回の見学では本殿の中に入ることはできませんでした。神社本殿の御開帳は、6月5日の「朝日町空気の日」と、空気祭を行う土日の期間のみとなっているからです。私が御開帳時に参拝したのは十数年ほど前のことです。初夏だったのですが、ひんやりとして、湿気を含む空気がじっとりとしていた記憶があります。



地球温暖化

山形県は、PM2.5(微小粒子状物質)濃度測定値が、全国で最も低い都道府県です。そこで、「空気がきれいな山形県」とアピールしています。「きれいな空気」とは、汚染物質や極小微粒子の有無だけが問題になるわけではありません。空気の組成という視点では、温室効果ガス、その大部分を占める二酸化炭素排出が地球規模の課題です。今年の大気中の二酸化炭素濃度は約420ppmで、この30年で30ppm程増加しています。この二酸化炭素排出量の増加を、なんとかしなければなりません。

この夏、「地球温暖化」から、「地球沸騰化」の時代が到来したとニュースになりました。世界気象機関(WMO)が「2023年7月が人類史上最も暑い月となる」と発表し、その結果が、今年の夏の猛暑です。この夏、山形の猛暑日(最高気温35℃以上の日)は28回。去年は7回。県内の熱中症で救急搬送された人数は、千人を超え過去最高となりました。

我々人類には、気象変動・気象災害に対して二つの側面から対策が求められています。一つは「緩和」、二酸化炭素の排出を抑えること。もう一つが「適応」、防災・減災という視点です。安全教育のテーマでもあります。

さて、本校の子供たちは、環境保全のためにできることとして、二酸化炭素排出量の削減、水質汚染の防止、ゴミの減量に取り組むと発表してくれました。子供たちの学びと今後の行動に未来への希望が見え、うれしくなりました。この子供たちが活躍する次の世代、その先の世代から、我々の世代が、持続可能な開発への転換となったと言われることを願います。



実りの秋 自然の恵みに感謝

さつまいも掘り

10月12日(木)、1・2年生が植えたさつまいもを収穫しました。葉っぱをむした芋づるは、クリスマスリースの材料になります。用務員さんから掘り起こす準備をもらって、カいっぱい引っぱると……、子供たちの顔よりも大きなさつまいもが、次々に出てきました。



脱穀体験・もみすり見学

10月18日(水)、5・6年生が脱穀の体験をしました。歴史の学習でも学んだ「千歯こき」、そして「ハーベスター(脱穀機)」を使っての脱穀です。歯車に巻き込まれないように注意しながらの体験となりました。それから、作業場に移動して「粳すり」の見学をしました

ぶどうの収穫体験

10月25日(水)、6年生がブドウ収穫を体験しました。一昨年まで地域コーディネーターとしてお世話になった布施先生の農園です。

今回は、高級ぶどう「シャインマスカット」を収穫させていただきました。袋を外し品定めをしてから、ハサミで房を切り取ります。そおっと袋を外し、どの房にしようかと迷いながら選んで、ていねいに切り離しました。



キノコの菌打ち体験

11月7日(火)、朝日町農林振興課の小鹿さんに来ていただき、1・2年生がシイタケとナメコの菌打ちを体験しました。コナラの原木にドリルで穴を開けてもらい、そこに、子供たちが種駒をはめ込み、木づちでトントン打ち込みます。打ち込む木づちに力を込めながらも、ていねいに打ち込んでいました。